

人権擁護委員の佐々木さん退任 法務大臣から感謝状



感謝状の贈呈を受けた佐々木さん

ことし6月で人権擁護委員を退任された佐々木正弘さん（豊間根・75）へ、法務大臣から感謝状が贈呈されました。佐々木さんは、平成19年4月に委員の委嘱を受け、以来、11年にわたり職務に従事。自身の活動を「長いようで短い11年間だった。大変な事も多かったが、自分の勉強にもなった」と、振り返りました。



左から、佐々木勝美さん、柏谷智康さん、柏谷直之さん、柏谷貴文さん、柏谷奨さん、沢田消防長

感謝状を贈呈した沢田雄消防長は「皆さんの連携の取れた適切な処置のおかげで一命が取りとめられ、重大な事故を防げた。今後ともご協力をお願いしたい」と感謝の言葉を贈りました。

8月6日、山田消防署で、大沢の漁港内で海に転落した男性を救助した5人に感謝状が

大沢地区で人命救助 消防署から感謝状贈呈

贈られました。感謝状を受けたのは佐々木勝美さん、柏谷智康さん、柏谷直之さん、柏谷貴文さん、柏谷奨さん。5人は6月13日、大沢漁港内で海に転落し、岸壁のはしごにつかまっていた漁業者の男性（72）を救助しました。

山田消防署からお願いとお知らせ 9月9日は『救急の日』



◎救急車の適正利用を

近年、救急車の出動件数、搬送人員は共に増えており、現場までの到着時間も遅くなっています。搬送された人の約半数は入院を必要としない軽症です。緊急を要する人への対応が遅れないよう、救急車の適正利用をお願いします。

◎救命講習受講者を随時募集

山田消防署では、心肺蘇生法や応急手当の救命講習受講者を募集しています。救急車到着までの間に応急手当をすることで、大切な命を救える可能性が高まります。希望する人は問い合わせください。

◆問い合わせ 山田消防署救急係（☎82-3139）へどうぞ。

みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ

〒028-1392（住所不要）
山田町役場総務課情報係
（☎82-3111内線417）へ

「追想」

昨日迄の酷暑とは裏腹に、雨の送り盆を迎えた。「精霊達、さあさあ今日は、お立ちでござんす」。故母は、ところ天を供え「お鏡を見て、お化粧めせんせ」。又、手作りの切りせんじよも上げ、「道中、腹を満たし

て、当たり障りの無いように、来年もお待ち申しておれんす」と唱え、合掌していた。何十年続けていたのだろうか？もう二度とあの言葉を聞くことはできない。

匿名希望（豊間根地区）

山田町民文芸広場

汚水をくぐりて淨き ハスの花

終戦日 くればかなしさ よみがえる

昭和は未だ 遠くにあらず

なんにせよ 命あふるる 声聞くは

一夏のわれの よろこびとせむ

内館 洋一（飯岡・75）

被災地の 向日葵強く 天を向く

夕暮れの 心の一服 蝉しぐれ

沼崎 悦子（船越・76）

町長室から

平成の時代最後となる戦没者追悼式が、8月18日に町中央公民館大ホールで行われた。実は、私の叔父は先の大戦で戦死している。叔父は岩手水産学校を卒業後、代用教員をしていた時に召集された。3才年下であった私の父は、少年航空兵で入隊時には下士官であった。その父が母親（私にとつての祖母）に宛てた手紙はこうだった。『同じ南方のどこかで戦っている兄の食事は、自分の部下の食事から推察するときわめて粗末なものであり、不憫でならない。戦地では階級によって食事の内容が異なっていたようである。父は18歳で曹長となっていたのでわりと良い食事であったらしい。その内容を祖母が私に話すものだったが、祖母はこの手紙をどんな気持ちで読んでいたのだろうか。戦地から無事に帰還した父も、その後マラリアを発症した。戦争は二度と起こしてはならない。』

山田町長 佐藤 信逸